



佐倉市議会の女性議員全員の連名で 橋本大阪市長に意見書を送付

橋下徹大阪市長の「戦時中の旧日本軍の慰安婦制度は必要だった」との発言と、「沖縄米軍の性犯罪防止のために風俗業を活用すべきだ」との2つの発言は、多くの国民の怒りを巻き起こし、様々な団体や地方議会が抗議の決議を上げています。橋下氏の発言の根底にあるのは戦争と暴力の容認です。その上に誤った歴史認識と女性蔑視が重なり、日本だけでなく世界から抗議を受け

市議会議員 萩原陽子

たのです。

5月21日の臨時議会で、佐倉市議会として抗議の決議を上げることが出来ませんでした。党派を超えて8人の女性議員全員の連名で橋下大阪市長と日本維新の会に抗議の意見書を送りましたので全文を掲載します。



新婦人の
支部大会で

橋下徹大阪市長
日本維新の会 御中

2013年5月21日

橋下徹大阪市長・日本維新の会共同代表の「従軍慰安婦容認発言」に対し強く抗議し、発言の撤回と謝罪、及び公職の辞職を求めます。

橋下徹大阪市長・日本維新の会共同代表は5月13日の記者会見で、「太平洋戦争当時、従軍慰安婦は必要だった」と容認し、また、在沖縄米軍司令官に対し、「風俗をもっと活用するように」と促すなど、女性の人権を蹂躪する発言を行った。これに対し、国内からは千葉県議会「女性県議の会」が抗議声明を発表するなど、批判の声が噴出し続けている。海外からも、米 국무省長官が「異常で不快」と反発するなど、批判の声は止まるところを知らない。

「慰安婦制度は必要だった」とする発言は慰安婦制度を容認し、性暴力の被害者である女性たちの尊厳と名誉を著しく傷つけたばかりでなく、全ての女性に対する冒涇であり、侮辱である。女性は人格を持った人間であり、「男性を慰安するモノ」ではない。公職にある人物の発言として、到底許すことはできない。

また、「戦時には軍の規律を維持するために必要だ」という発言は、戦時においては女性への性暴力はつきものであるとの前提にたち、戦争をも容認している。これは本末転倒であり、人間の精神を異常にする戦争そのものを否定すべきである。

橋下氏はその後も発言を撤回せず、マスコミが大誤報をしたかのように責任を転嫁し、自らを正当化する強弁を続けている。

私たち佐倉市議会・女性議員は橋下氏に強く抗議し、発言の撤回と謝罪を求めるとともに、大阪市長・日本維新の会共同代表という公職を辞職することを求めるものである。